

移住・定住

新築助成が今年から廃止になりました。利用が少ない、市内業者が利用されないから廃止ではなく、移住政策の新築助成と定住政策のリフォーム助成の両方があるてもいいのではないですか。制度は残しておいた方がよいのではないのでしょうか。

統計的にみると、助成があるから新築住宅を建てたという訳ではありませんでした。廃止の大きな理由は、市内の建設業者が利用されず、市民の税金による助成金が、市外の企業に流れてしまうことでした。また、首都圏や札幌圏からの移住でなく、近隣市町村との人口の奪い合いは、いかなるものかと思えます。

財政

水道事業会計の、収入が減ってきている。今後の配水管の更新が心配。人口が減少してきている状況で、一人あたりの負債額が増えているのでは。

統合小学校の起債の償還が、令和7年から始まりますが、償還が終わるも

のもありますので、少しずつですが、負債額は減る見通しです。何も事業をやらぬ訳にはいかないのです、バランスを考えて事業を進めていきます。水道事業については、注視していかなくてはならないと考えております。

水道

浄水場の更新は、早期に着手するのですか。耐用年数はあと25年ほどと聞きました。また、技術者が不足しているなか、10年後を見据え技術職員を採用し、育成するべきでは。

浄水場の更新までは、あと25年ほどと計画しています。国や北海道は、広域水道企業団に加入することを推奨していますが、解決しなければならぬ課題などがあり、加入には至っていない状況です。耐用年数までに広域化するの、浄水場を更新して単独で水道事業を行なうのか、決める必要があります。技術職は全国的に不足している状況です。全体の職員の採用とあわせて検討していきます。



公共交通

10月1日の改正で、砂川市立病院への直通バスがなくなりました。現状維持を続けていく策も必要では。乗らなければ、JRやバスも便数が減り、いずれ廃止となる。一人でも多くの市民に、親しみをもって、利用してもらうことを考えてもらいたい。

新型コロナウイルスの影響も多分にありますが、利用者が減り、今まで滝川芦別線と歌志内線は市の負担金はありませんでしたが、今年度の赤字が国の補助だけでは追いつかない金額になっています。廃線や減便を最小限に抑えるため、市の負担というの、今後求められると思います。

利用していただく方策については、JRにおいて、子どもたちが滝川駅まで、実際に利用する社会科学習を各小学校で行なっています。またNPOでも、「富良野に乗って行こう」という催しもありました。こうした取り組みにより、JRに対する国からの支援につながる可能性もあります。



統合後の校舎の利用

行政が考えると費用面ばかり気にするが、利用者の関係団体が集まると一定の収益をあげ、全てまかなえるとはいえないが、それを財源に一定の運営ができる。市民と行政が一緒に使途を考える場を設けてほしい。(要望)

野生動物

ヒグマの出没が多い。住宅地と山の間、木の伐採はできないでしょうか？また、ヒグマの注意看板を大きくて迫力のあるものにしてほしい。

札幌の東区や、旭川の市街地などにもヒグマが出没しています。草刈りなどを行なうと、ヒグマが隠れるところが無くなり出没が減ると聞いています。注意喚起は、これからも取り組んでいきたいと思っています。



ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。

第54回 赤平市金婚式



山西 ^{ゆたか} 穰 ^{しげこ} さん
繁子 さん



熊谷 ^{としゆき} 敏幸 ^{きみえ} さん
貴美江 さん



藤原 ^{ちから} 税 ^{きみえ} さん
君永 さん



吉田 ^{しゅんいち} 俊一 ^{てるこ} さん
暉子 さん



南 ^{たけみつ} 武光 ^{りょうこ} さん
良子 さん



柴田 ^{さかえ} 榮 ^{きこ} さん
登貴子 さん

今年ご結婚50周年を迎えられた24組の方々のうち、10月27日に交流センターみらいで行なわれた第54回赤平市金婚式にご出席された6組のご夫婦を紹介いたします。

祝 結婚 50 年

